6. セッション3 資料

セッション3「子供たちのための地域の MI・RA・I」 ~半径 3 メートルからはじめる暮らしかた革命をどう起こすか~

【セッションの背景と狙い】

食べ物、洋服、家電、家・・・多くのモノを日々「買う」ことで私たちの暮らしは成り立っている。 しかし、消費者(市民)のほとんどは売られているものから「選ぶ」ということに慣れ、大量生産 大量消費が現在も続き。購買決定権を持つ消費者からの変革が求められている。

また、地域社会に目を向けてみると、商店街の空洞化などの地域経済の低迷やコミュニティ の崩壊などの社会課題も顕在化しており、その解決のため相互に連携したプラットホームの 構築が急務である。

セッションでは、地域づくり=子供たちの未来づくりと捉え、群馬県桐生市での未来創生塾の取り組みなどを紹介しながら、小田原での連携の姿やどのようにプラットホームを構築していくのかを議論する。

【内容】

報告①「プラットホームとしての未来創生塾 —市民・経済界・地域に支えられて一」 発表者 宝田恭之氏 (群馬大学)

・ 未来創生塾とは、小学生とその保護者を対象にした"感性を育み、楽しい未来社会を 担う人材育成"を目的とした全く新しい教育プログラムである。

特徴は、「地域の文化、歴史、自然、産業を活用」「桐生市、群馬大学、市民、企業が連携」「年間を通しての系統的プログラム」「大人には知識、子供には感動を与える」があり、コミュニティの一体化、心地よさの発見、郷土への誇りや愛着、コミュニティ発展の喜び等の成果が生まれており、未来創生塾自体が地域のプラットホームとしても機能している。

未来創生塾の構築の背景、連携の工夫などを紹介する。

報告②「未来創生塾の子供たちの発表」

発表者 未来創生塾塾生

報告③「小田原の子供たちからの発表」

発表者 親子で学ぶ!小田原版フードソムリエ塾参加者神奈川県立小田原総合ビジネス高等学校学生

ディスカッション「小田原でのプラットホームをどう作るのか」

コーディネーター:永田 潤子 氏(大阪市立大)

パネリスト: 志村 成則 氏(志村屋米穀店)

鈴木 悌介 氏(小田原箱根商工会議所 会頭)

蒲生 美智代 氏(NPO 法人 チルドリン)

大木 勝男 氏(小田原市生涯学習課長)

ほか

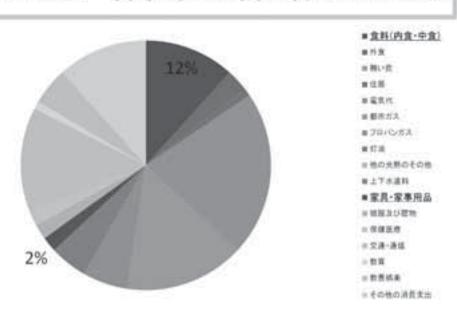
(参考資料)

消費者・市民視点を活かした 低炭素型社会構築

永田 潤子

jnagata@gscc.osaka-cu.ac.jp (大阪市立大学大学院 創造都市研究科)

1.はじめに 日常的なお買い物CO2は14%



- 重選择提供データより(3EID、家計調査、ともに2005年)
 「食料」の内沢は、穀類、魚介額、肉種、乳酸酸、野菜・海藻、美物、油脂・濃味料、菓子類、油理食品、飲料、酒類



●60%前後の人が、社会や地域、環境に「お金をかけずに貢献したい」と回答。

■ わからない

口全く興味がない

●「家族や仲間との時間」や「健康管理」は「お金を払っても」大切にしたいと考えている人が84%。

消費者の意識の現状と課題

自無回答

環境意識は高く、危機感もある

環境配慮型商品の認知度もあがっている

手軽な環境行動は実践、ライフスタイルの転換には 至っていない

生産者や流通とのコミュニケーションを求める

「市民の顔」と「消費者の顔」がある

健康・家族との時間などに価値を見出す

相互学習型プラットホームの構築へ

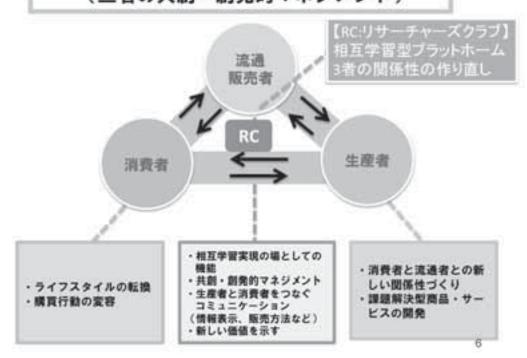
現在の市民・消費者エンパワー型パッケージ

相互学習型プラットフォーム実装・普及状況



2 名古屋発!お買い物革命

(三者の共創・創発的マネジメント)



「リサーチャーズクラブ」のアプローチ

- 流通販売者と消費者の相互学習により、よりよい買いものを目指す場
- 月1回程度のミーティングを開き、消費者と流通販売者が「心地よいくらし」と 「低炭素社会」を両立させるおかいものについて話し合い、情報表示や店舗マ ネジメントなどを検討し、実証する



第1期

・協働企業:ユニー株式会社様

活動期間:2010年9月~2011年3月

・メンバー:女性生活者18名

・テーマ :容器包装、エコ商品・PB商品、野菜

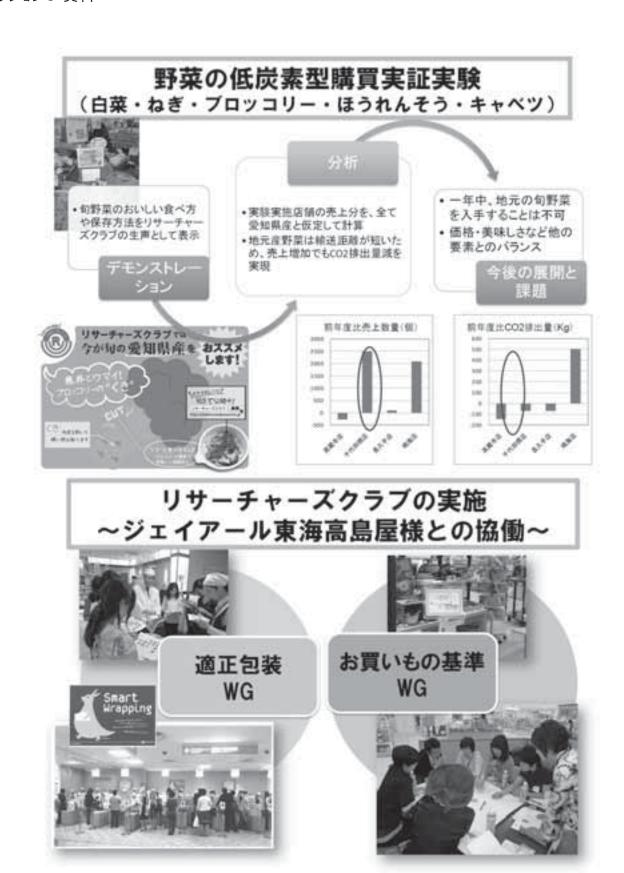
協働企業:(株)ジェイアール東海高島屋様

·活動期間:2011年5月~2011年12月

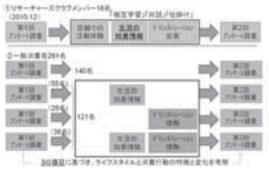
・メンバー:女性生活者12名・テーマ :適正包装、お買いもの基準

店舗でのデモンストレーション





参画した消費者の意識変容・行動変容



20歳以に基づき、ライアスタイルとお果汁取の特殊と変化を考望				
有意見しつなが長られた領目	9904	TROH	3811-319	
(1)情報に影響した水田を良いたい(情報配達水田市)			10.00	
TEAN-CHICAGO STREET		9290		
日の事よりも実施を開発したいでかる一ムに		-1391		
1000年の前でも開発した出版を選ぶて100円を1			430	
(11をお講ぐても無名と・カーのものよ)(は有名と・カーの ものを選ぶ(来名・大学出版)			-0.201	

***: p<0.5,**: p<0.1,*: p<0.2

つい個人のしやするで商品を選ぶことが多い (個人人やする事情)

2000年で発売業分学(ものも悪人で)も対象検査性

リサーチャーズクラブメンバー および一般の消費者へのア ンケート調査を実施



- 健康配慮商品、環境配慮 商品の購入意欲が高まっ
- ■情報発信や商品選択を慎 重にするようになった。 ■有名メーカー志向が低下し
 - 有名メーカー志问

リサーチャーズクラブを経ての事業者の生声

-0.001

【ユニー族 担当者の生声】

「お客様に十分伝えていると思っていたがこんなにも伝わっていなかったのか・・」

「お客様が求めている情報と、こちらが 伝えている情報にギャッフがある。」

「環境」を本業の中にどう取り込んでいくか経営課題として検討しなければいけない。」





【策ジェイアール東海高島屋 担当者の生声】

「実際にリサーチャースクラフを自社だけで 行おうとした場合、企画・運営を行うための /ウハウがなく、現実的には困難であった。」

「JST名古屋プロジェクトが事務局として第 3者的に関わることで、お客様の要望に対 し、できる・できないの2者択一ではなく、解 決策を一緒に考えることができた点がよ かった。」

プラットホームで取り扱える 代表的な商材のCO2削減効果の試算(家計単位)

消費者行動変容	CO2削減効果	
地元の野菜を選択	410千t-CO ₂ 削減	
旬の野菜を選択	76千t-CO ₂ 削減	
環境保全型農業の野菜を選択	133千t-CO ₂ 削減	
環境保全型農業の米を選択	1,580千t-CO ₂ 削減	
PSPトレイをトレイレスに変更	482千t-CO ₂ 削減	
洗濯時すすぎを2回→1回に変更	301千t-CO ₂ 削減	

実装展開 | (滝沢市:環境×食育での展開)

野菜の「情報表示」「料理レシビ」「保存方法」などに対するニーズがある

ママ・カレッジ参加者がお母さん目線で、自分たちの知りたいことを勉強し、それを他のお母さんに情報発信(月に1回のカレッジ後)

保育園・幼稚園での情報発信 (約550名の母親向け) マイヤさんの売り場に、園だよりと連携した情報 (栄養価・保存方法・レシビ等の情報)

連携した情報発信

保育園・幼稚園からのお便りに 「子どもの栄養と成長」 「野菜の旬」などの情報が届く

買物の際に、具体的な情報を知る ことで、実際に活用しやすくなる

- ●地域のママさんを巻き込んだ緩やかなネットワーク (ママ・カレッジ・月1回)を、9月~2月まで実施。
- ●滝沢市・のびあ(女性のネットワーク事業)と連携
- ●栄養士・保健師学会での発信

ママ・カレッジの様子







ママ・カレッジコーナー (地元スーパーのマイヤさん)





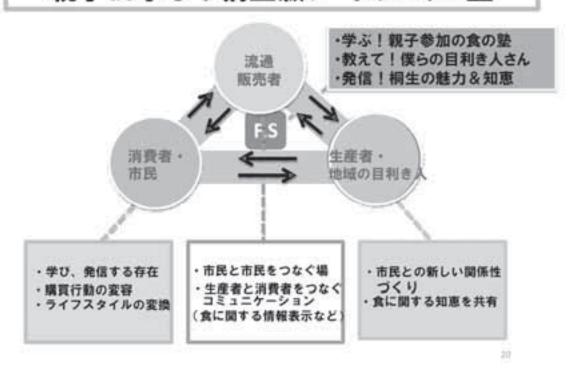
実装展開Ⅱ (桐生市:家庭→地域モデル)



- 1 食をテーマに、ブラットフォーム構築
- 2 親子参加による"リサーチャーズクラブ"形式で、対話の促進、購買行動の 変容
- 3 地域全体で共通したテーマで、スーパーや商店街など参加可能型

実施主体:群馬大学·大阪市大 × 桐生市MPO × 商工会議所

親子de学ぶ!桐生版フードソムリエ塾



6.セッション3 資料





実装の成果

(滝沢市)

- ・ママカレッジ参加のお母さんは食に対する知識が増え、実践力がアップ
- スーパーでの購買変容は、ママカレッジで取り上げた商材は 10%~20%売上がアップした
- ・市役所では、広報にママカレッジの要素を入れて情報発信。(桐生市)
- ・ソムリエ塾参加の親子は、食に対する知識が増え、家庭での対話が増えた。
- ・連携した店舗には参加者が買い物に。
- ・連携した高校はSHSに応募。残念ながら落選したが、 自主的に継続実施。

川下からの変革を起こす

(RISTEX「地域に根ざした脱温暖化プロジェクト」の 社会技術の諸側面に関する資料を筆者加工)



国民・住民の「顔の見える」Community-basedアプローチ

7. 統括セッション資料

総括セッション「『心豊かな』く・ら・しにむけて今、私たちにできること」

司会:宝田 恭之 氏(群馬大学) パネリスト:加藤 憲一 氏(小田原市長)

大和田 順子 氏(ロハス・ビジネス・アライアンス共同代表)

山納 銀之輔 氏(エコビレッジ専門家)

堀尾 正靭 氏(東京農工大学)

小山田 大和 氏(エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議 事務局長)

統括セッションでは、二日間の議論を踏まえ、楽しく夢のある暮らし、地域、 社会とはどんなことか、そして、それらを実現するためには何が必要であるかを 議論し、小田原から全国、全世界に情報を発信したい。

ポイント

- 未来型の心豊かな暮らし
- 意識改革、価値観変革 物から心へ
- 持続可能社会構築のための産業界の役割
- 市民活動と脱温暖化
- 産官学民一体化による楽しく強いコミュニティー
- 創発から誘発へ
- 先進国の上位概念
- 本物が分かる感性豊かな人材の育成